

未来の風

新中間処理施設の建設に対する認識は

江本 浩二



問 新中間処理施設の建設について過去に締結した覚書等を踏まえた本市の認識は。

答 市長 新中間処理施設の整備に当たり、本市と清水町は、施設の必要性や安全性、昭和四十九年に清水町外原区長と締結した覚書等に係る用地選定の経緯などについて、施設周辺の清水町民に対し、意見交換会や説明会を通じて、丁寧に説明を行ってきた。この結果、平成二十五年九月には清水町区長会の要望を受け清水町長から、また、令和二年一月には清水町長から、新施設の早期建設の要望書が本市に提出されている。これを受け、本市もその要望に応えるため、着実な事業の推進に努めている。ごみ処理施設は市民生活に欠くことのできない大変重要な施設であることから、早期の供用開始を目指していきたいと考えている。

問 コミュニティ・スクール導入による効果と今後の取組は。

答 教育長 コミュニティ・スクールは、校長が策定する学校運営に関する基本方針を、保護者や地域住民の代表等が委員を務める学校運営協議会に諮り、委員が合議により承認するなど、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む、地域とともにある学校への転換を図るた



▲昭和51年に建築された現在の清掃プラント（ごみ焼却施設）

めの有効な仕組みである。このため、学校運営に保護者や地域住民等が当事者として参画することとなり、学校行事や地域学習などの組織的な連携・協働活動が実現するとともに、教職員の異動の影響を受けるとなく、継続的な学校運営が可能となるものである。今後は、コミュニティ・スクールを市内全域に拡大し、学校・家庭・地域が当事者意識を持ち、教育目標や運営ビジョンを共有しながら、小中学校で一貫した学校運営に参画する、地域総がかりで取り組む教育を目指していきたいと考えている。

日本共産党 沼津市議会

中心市街地まちづくりの設計図を示す考えは

川口 三男



問 中心市街地のまちづくりについて、①市民と協働で行う考えは。②市民に分かりやすい設計図を示す考えは。

答 市長 ①中心市街地のまちづくりに当たっては、行政だけでなく、市民が関心を持ち、主体的にまちづくりに参画することが重要であり、目指すまちづくりの方向性について、官民が共通認識を持ち、協働してまちづくりを推進する必要があると認識している。②令和二年三月にまちづくりの設計図ともいえる中心市街地まちづくり戦略を策定しており、策定に当たっては、まちづくり戦略会議を公開で実施したほか、会議で議論されたヒト中心のまちづくりを広報めまづで特集するなど、多くの市民に関心を持ってもらえるように効果的な周知を図ってきた。また、

本戦略策定後は、まちなかデザイン会議などにおいて、先進事例の紹介などを通じ、市民に対しまちづくりへの



▲整備後の沼津駅南口駅前広場のイメージ図

理解の促進と参画意識の高揚を図ってきた。今後も市民との対話において中心市街地のまちづくりの将来像を示しつつ、社会実験の実施により、その効果と課題を検証しながら、ヒト中心のまちづくりの実現に向けて取り組んでいく。

問 沼津駅周辺総合整備事業の完成時期における人口見込みは。

答 市長 本市の人口の将来展望は、沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンにおいて五年ごとに設定している。沼津駅周辺総合整備事業が、令和二十五年に完成すると仮定した場合、直後の令和二十七年の本ビジョンにおける人口の将来展望は、総人口は十五万九千八百九十五人、年少人口は二万二千七百三人、生産年齢人口は七万八千四十六人、老年人口は五万九千四百六十六人と見込んでいる。

問 今後の税収確保に対する考えは。

答 市長 市税収入は、税制改正や景気の動向などにより大きく変動するものであるが、企業誘致による雇用の拡大や子育てしやすい環境づくりなどは、人口増加や定住人口の確保につながり、市税収入の増加にもつながることから、これらの様々な施策を積極的に進めることにより、税収確保に努めたいと考えている。